

ありがとうおにいちゃん

岩谷 遥斗いわたに はると

ぼくはじぶんのなまえをとてもきにっています。この「はると」というなまえをつけてくれたのが、ぼくのおにいちゃんです。ずっとおとうとがほしかったおにいちゃんは、ぼくがうまれたのをとてもよろこんで、「ぼくがなまえをつける！」といつて、まわりのいうことをきかなかったそうです。

7さいとしがはなれているから、おにいちゃんはほくよりたくさんのお話をしています。だからぼくにいろいろなことをおしえてくれます。がっこうがきゆうこうになって、ふたりでるすばんをしていたときには、ひらがなのかきかたをおしえてくれました。しゅくだいのまるつけもしてくれて、ぼくがかいていないところをおしえてくれました。おにいちゃんはちゅうがくせいだから、ぶかつどうやべんきようでいそがしそうにしているけど、いっしょにあそんでくれるときもあります。ぼくは、おにいちゃんとあそぶじかんがだいすきです。でも、げーむにまけてぼくがなくなると、おにいちゃんは「な

くなら、もうあそばないからね。」といつて、おこります。おにいちゃんは、てかげんをしてくれません。

ときどきおにいちゃんは、ぼくのらいごとのむかえに、じてんしゃできてくれます。おかあさんがいそがしいときは、いっしょにおふろにはいってくれます。あつたかくてきもちがいいおふろに、ふたりでのんびりはいるのがたのしいです。

どうろをわたるときは、てをつないでくれて、ぼくのものをもつてくれます。ぼくはいつもたすけてもらいます。おにいちゃんとけんかをすることもあるけど、ぼくはおにいちゃんがかぞくのなかでいちばんすきです。

おにいちゃんは、おとなになったら、うちゅうにろけつととばすひとになりたいそうです。ぼくもおなじしごとをして、おとなになつてもおにいちゃんのちかくにいて、こんどはぼくがおにいちゃんをたすけたいです。

おにいちゃん、いつもありがとう。